

勝壯鹿乃	真々乃入江余	打摩	玉藻苺兼	手兒名志所念	万葉集 卷三 433 山部宿禰赤人
勝鹿の	真間の入り江に	うち靡く	玉藻刈りけむ	手兒名し思ほゆ	
かつしかの	ままのいりえに	うちなびく	たまもかりけむ	てこなしおもほゆ	
葛飾の	真間の入り江に	靡いている	美しい藻を刈ったという	手兒奈が偲ばれる	